

様式第2号

視察研修先	和歌山県橋本市	氏名	児玉 崇
視察研修項目	農業振興条例について		
1. 概要 和歌山県橋本市は、美しい田畑が広がる自然豊かな地域であり、その豊かな自然環境を守るため、市と農業者が協力して農地の保全および農業振興に取り組んでいる。しかし、農業の担い手不足や耕作放棄地の増加といった課題も抱えており、これらを解決するためには農業者だけではなく市民全体で農地と里山を守る意識改革が必要であると考え「農業振興条例」の制定へと進んでいった。 2. 橋本市農業振興条例の制定 橋本市は、和歌山県下で初となる「農業振興条例」を制定。この条例は、包括的な農業振興と地域づくりのための基本方針や支援施策を定めており、市民、農業者、行政のそれぞれの役割を明確にしている。 ・市民の役割：農業および農村が果たす役割を理解し、地産地消を通じて農業および農村の振興に協力する。 ・農業者の役割：農地を適正に維持し、安全かつ安心な農産物を供給するとともに、農村地域の地域づくりを主体的に実践する。 ・行政役割：農業者などが地域において一体となり、地域の特色を生かした安定した地域農業の確立を支援し、農地利用の集積・集約化や担い手の確保に協力する。 3. 農業振興のための施策と支援 橋本市は、農業振興条例に基づき、以下のような手厚い支援施策（補助制度）を実施している。 ・農産物のブランド強化 ・遊休農地の拡大防止 ・農業経営の安定化 ・収益性の高い農業推進 ・担い手対策 4. 所感 橋本市の取り組みは、市民、農業者、行政が一体となって地域農業を振興しようとする意識改革の模範例であると感じました。特に、農業振興条例に基づいた具体的な施策が着実に進行しており、地域農業の将来に対する明るい展望を持つことができていると感じてまいりました。			

様式第 2 号

視察研修先	和歌山県紀の川市	氏名	児玉 崇
視察研修項目	フルーツツーリズムについて		
1. 概要 和歌山県紀の川市は、温暖な気候と肥沃な土壌を活かして、多種多様な農産物を生産している。農業産出額では和歌山県内 1 位を誇り、トップブランドである「あらかわの桃」をはじめ、はっさく、いちじく、柿、いちごなどの四季折々の果物が豊富に収穫されることから、「フルーツ王国」として知られている。紀の川市は、「紀の川フルーツツーリズム」という観光振興事業を展開しており、新商品開発やフルーツ狩り体験などの多様な事業を行なっている。この事業は、全国初となる大型のフルーツ体験型博覧会の開催を含む、法人化した組織によって運営されている。 2. 事業目的 紀の川市は近郊大都市住民をターゲットに体験型観光を推進し、地域資源である「フルーツ」に焦点を当てた地域づくりと生業起こしを展開している。この取り組みは、 ・誘客の仕掛けと市民自らが考え実行する体制を整える。（地域づくり） ・情報発信を通じて、地域内外から紀の川市ファン（交流人口の増加）を獲得する。 ・観光消費額の増加を図る。 などの目的を持っている。 3. 事業内容 ・持続的体制の構築（役目役割が明確化されたチーム編成） ・商品開発（6 次産業化） ・フルーツのまちの雰囲気作り ・機運の醸成 ・フルーツのまちのプロモーション強化 など 4. 取り組み 実行委員会を立ち上げた後、フルーツにちなんだ ・料理チーム ・体験チーム ・商品チーム ・学びチーム を編成し、市民が気軽に参加できるワークショップやスキル講座の開催、ビジネス			

化を意識した企画・商品開発を実施。集大成として、全国初となるフルーツをテーマとした体験型交流博覧会「紀の川フルーツ体験！ぷるぷる博覧会」を約1か月にわたり開催し、60以上のフルーツにちなんだ体験や催しを行い、多くの集客を得ている。この博覧会は以降毎年開催されている。

5. 成果

- ・法人化「(一社) 紀の川フルーツツーリズム」として、市民が将来にわたって自立的に活動できる体制が整った。
- ・フルーツをテーマにした活動が法人事業として展開され、活動資金を確保しながら「フルーツのまち紀の川市」の魅力を継続的に発信し、PRと誘客を図っている。
- ・「フルーツ」を共通テーマとして市民や市内事業者はつながり、交流・連携の意識が深まった。
- ・市や観光協会、JAや商工会などの地元企業が連携し、DMOも発足した。

6. 所感

紀の川市のフルーツツーリズムに関する取り組みは、地域資源である「フルーツ」を最大限に活用した先進的な観光振興策として大変印象的でした。市民、事業者、行政が一体となって地域の魅力を発信し、持続可能な体制を構築していることは、当市はもちろん他地域にとっても参考になるモデルケースであると感じてまいりました。特に、体験型博覧会の成功は、市全体の団結力と創意工夫の結果であり、今後の更なる発展が期待できることは羨む限りであります。

様式第 2 号

視察研修先	和歌山県和歌山市	氏名	児玉 崇
視察研修項目	リノベーションまちづくり事業について 官民連携による稼げる空間リノベーションについて		
1. 概要 和歌山市は、和歌山県の北部に位置し、県庁所在地であり、県内で最も人口が多い中核市である。和歌山市では、増加する中心部の遊休不動産を再生・活用し、その機能や性能を再起・向上させる「リノベーションまちづくり」に取り組んでいる。この取り組みは、官民連携のもとで実施され、まちなか再生に向けて新たな雇用と産業を生み出し、エリアの魅力の再構築を目的としている。 2. 取り組み 「リノベーションまちづくり」とは、既存の遊休不動産や公共空間を活用し、新しい使い方を導入することでまちに活気を与える取り組みである。通じて都市型産業の集積を図り、まちの再生のみならずまちづくりの担い手やコミュニティの活性化を目指している。 ・遊休不動産の再生とまちづくりの担い手育成を図るため、短期集中合宿形式で「リノベーションスクール」を実施。 ・わかやまりノベーション推進指針の策定 リノベーションまちづくりの目的や方向性、進め方を示し、民間主導による公民連携を実現させるための指針。この指針策定により、民間が主体となり、すぐに実施可能な事業を積極的に進めていった。 3. 所感 市の担当職員にリノベートされたまちなかをご案内いただき、リノベーションまちづくり事業が遊休不動産の再生を通じて新たな価値を創出し、地域の魅力向上や経済活性化に寄与していることが確認できた。また、リノベートされたまちの雰囲気は民間主導のまちづくりであることが強く感じられ、深く印象に残った。 空洞化が否めない本市も、官民連携のもと、できれば民間が主導となり地域の特性を活かした創造的なまちづくりができればと感じてまいりました。			

様式第 2 号

視察研修先	和歌山県有田市	氏名	児玉 崇
視察研修項目	有田市農業次世代人材投資事業「AGRI-LINK IN ARIDA」について		
1. 背景と概要 有田市は、和歌山県北西部に位置し、400年以上続くみかんの名産地として知られている。温暖な気候と石垣づくりの段々畑で栽培されるみかんは、甘くコクがあることで有名である。しかし、農業従事者の高齢化と後継者不足が深刻な問題となっており、耕作放棄地の増加や人手不足が進行している。2015年から2030年にかけて、耕作面積は約3分の2に減少する見込みであり、半数以上の農家には後継者がいないとされている。 この問題を解決するために、有田市と㈱リクルートは地方創生を目的とした包括連携協定を締結し、2017年に「Cheers Agri IN ARIDA」を発足。その後、2019年には新たな就農支援スキーム「AGRI-LINK IN ARIDA」を運用開始した。このスキームは、新規就農者と農地提供者、地域農家のマッチングを通じて、スムーズな就農と独立を支援するものである。 2. 具体的な取り組みと成果 (1) 農地の価値の可視化と共有 過去の収量、栽培履歴などから農地に適切な賃料を設定し、農地の価値を3者でシェア。「農地DB」により、農地の売上情報や栽培方法などを記録し、その価値に応じた賃料を農地提供者に支払う。 (2) 包括的な就農支援スキーム 事業継承マッチング、就労・技術マッチング、農地マッチングの3つの支援を提供。市独自の補助金として新規就農者に2年間で150万円を提供。 (3) 地域全体での取り組み 地元高校生たちの就農体験や農家意見交換会、販路拡大講座などを通じて、地域全体での農業振興を推進。ドローンによる農薬散布実験などの先進技術の導入推進。 3. 今後 地域全体での取り組みとリクルートとの協業により、農業の持続可能な発展に向けた新しいモデルが構築されたことで、有田市の「AGRI-LINK IN ARIDA」は、高齢化や後継者不足といった深刻な問題に対する有効な解決策として今後も期待される。 この取り組みを継続・発展させることで、有田市のみかん産業の未来を明るくしていくことが期待される。			

4. 所感

今回の視察を通じて、有田市の「AGRI-LINK IN ARIDA」プロジェクトが農業従事者の高齢化と後継者不足という深刻な課題に対して効果的な解決策を見出していること、そして、㈱リクルートとの協業による包括的な支援スキームは、新規就農者のスムーズな定着と地域農業の持続可能な発展を促進しており、非常に有意義であると感じてまいりました。また、このプロジェクトの成功は、有田市が地域全体で農業振興に取り組む姿勢と、先進的な技術導入や販路拡大の努力が結実した結果であると感じてまいりました。

そして、本市におきましても有田市の成功事例を参考にし、地域の特性に合った持続可能な農業支援策を検討・実施していくべきであると強く感じてまいりました。